

3 - 3 都市・農村交流に向けた課題（要約）

～ 阿蘇草原再生に関する意見交換会・討議内容より～

< 前提となる地域内の連携・活性化 >

阿蘇の価値や役割の再認識

- ・ そこに住む人が生業のため、自然に手を加えて造ってきた自然は、本来的に個性的で貴重な空間だが、その上、阿蘇には草原という他地域にはないものがある
- ・ 循環型システムの象徴としての価値（農畜産だけでなく、資源・エネルギーとしての草原の見直し）
- ・ 草原の中で育まれてきた文化の価値
- ・ まず、住む人が農山村の役割を認識し、農山村の豊かさを味わうことから出発
- ・ 見せたり、食べさせたり、遊ばせたりする複合的なワザ・工夫を凝らした農業を地域内の連携・ネットワーク化の強化

- ・ 行政、営利団体、非営利団体の連携に基づく地域づくり
- ・ 地産地消をベースとした地域内のネットワーク化と都市との交流推進
- ・ 地域づくり活動にもコスト意識、ランドデザインを持った取り組みを
- ・ 観光業者と地元の農業者間の交流の推進による相互理解

地域内での教育や環境保全への取り組み

- ・ 感受性の強い小学生の頃から野焼きの体験・見学などをさせて、誇りを育む
- ・ 環境を大切に作る心構えと取り組みの推進

阿蘇発の取り組み

- ・ 「夜の野焼き」の復活など、既存の法規制にとられない阿蘇発の新しい制度づくりの検討



< 都市・農村交流の推進による地域の活性化 / 草原再生への幅広い参加協力 >

草原のすばらしさを共通認識とした都市・農村交流へ

交流機会の増大 / 交流の質を高める

- ・ 地域の発想や知恵を生かした交流の推進
- ・ 子供の頃からの交流を深め、子供の頃から都市と農村のつながりを認識させる
- ・ 訪れる修学旅行生等への事前学習の普及
- ・ 阿蘇での過ごし方を充実させ、繰り返し来てもらうなど、量より質を重視した交流を
- ・ 農業の現場を知ってもらい、理解を得る
- ・ 草原の体験の場としての活用

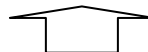
牧野利用のルール・条件の整理

- ・ 牧野の立ち入りに関する具体的なルールの普及啓発
- ・ 牧野組合へのメリットの創出

受け入れ態勢・窓口の一本化

地域の人材の活用

- ・ 地域の名人、達人の交流活動への参加



地域側から、地域の言葉による情報発信

地域内での情報の共有化

子供たちを対象とした草原問題や環境教育に関する情報発信

協力意向の高い下流域の高齢者等に向け、的を絞った情報発信